

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもプラス豊見城教室 4号館		令和 8年 4月 30日				
	チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		9	2			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2	移転により十分な支援スペースを確保できる環境となり、活動内容に応じて支援スペースを分けることが可能となっている。	移転により支援環境は改善したが、活動内容の多様化に応じた柔軟な空間活用を引き続き工夫していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	0	シフト管理を徹底し、配置基準に沿った人員を配置している。	今後も利用状況の変化に応じた適正配置を継続し、より安定した支援体制の維持に努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	4	移転に伴い空間を再構成し、机や活動スペースの配置を明確にすることで、こどもが活動内容を理解しやすい環境づくりを行っている。	死角や段差があることから、緩衝材や衝立を設置したり、積極的な声掛けを徹底し、より安心して過ごせる環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	移転後の環境整備を行い、活動に応じた空間づくりを意識するとともに、整理整頓や消毒を徹底し、清潔で安心して過ごせる環境を維持している。	活動の多様化に応じて、より快適で機能的な空間づくりを継続的に見直していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	個別対応が可能な空間を確保し、体調不良時や情緒面での切替が必要な場合には、安心して過ごせる個別スペースで対応している。	個別対応の必要性が高まる場面を想定し、より安定的に使用できる環境整備を継続していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	0	職員がキャリアプランに基づき目標設定を行い、定期的な振り返りを通して業務改善に取り組んでいる。共有の機会を設けることで、継続的な改善につなげている。	目標の進捗確認と振り返りの内容をさらに具体化し、改善事項を確実に実践へと反映させていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	保護者向け評価表の活用に加え、日々のコミュニケーションを通して意見や要望を丁寧に把握する機会を設けている。得られた評価や意見を職員間で共有し、業務改善に継続的に反映している。	改善内容や対応状況をより分かりやすく伝え、保護者との相互理解を一層深めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	毎月の面談に加え、日常的な対話を通して職員の意見や提案を把握している。得られた意見は共有の場で整理し、具体的な業務改善へと反映している。	意見を出しやすい風通しのよい環境をさらに整え、改善内容を継続的に実践へとつなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	毎月開催されるFC(こどもプラスホールディングス)本部主催の研修を受講しているほか、資格取得支援や内部共有を通して、職員の専門性向上に取り組んでいる。	研修内容の共有をより徹底し、全職員が均質に学びを深められる体制づくりを継続していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点に基づき支援プログラムを作成し、公表している。また、実践内容との整合性を確認しながら運用している。	利用者のニーズや環境の変化を踏まえ、内容を定期的に見直ししながら、より実効性の高い支援プログラムへと更新していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	0	面談や日々のコミュニケーションを通してこども・保護者のニーズを丁寧に把握し、個別支援計画に具体的に反映している。また、支援内容との整合性を確認しながら運用している。	ニーズの変化をより的確に捉え、計画の見直しを機動的に行える体制を強化していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	支援に関わる職員による会議を実施し、児童の状況やニーズを共有したうえで、多角的な視点から検討を行っている。共通理解のもと、こどもの最善の利益を踏まえて計画を作成している。	課題の共有をより具体的に行い、意見交換を活性化させることで、児童の変化や新たなニーズに迅速に対応できる計画運用を継続していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	放課後等デイサービス計画を職員間で共有し、日々の支援や記録・振り返りを通して、計画に沿った支援の実施を確認しながら運用している。	支援の実践と計画の整合性をさらに高め、こどもの変化に応じた見直しができるよう共有の質を継続的に向上させていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	0	こどもの適応行動の状況は、フォーマルなアセスメントに加え、日々の行動観察を記録し、インフォーマルなアセスメントとして活用し、確認している。	日々の観察記録とフォーマルなアセスメント結果との関連性をより明確にし、評価内容を支援計画へ一層反映させていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	1	標準化されたアセスメントや日々の観察記録を踏まえ、放課後等デイサービスガイドラインに示された「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点に沿って、こどもの支援に必要な項目を設定している。その上で、具体的な支援内容を明確に位置づけている。	計画内容と実践の整合性を定期的に確認し、こどもの状況変化に応じて支援内容をより具体的なかつ実効性の高いものへと更新していく。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	活動プログラムはチームで立案し、各職員の専門性や視点を活かしながら多角的に検討している。こども一人ひとりの発達状況やニーズを踏まえ、目的やねらいを明確にしたプログラムを設定している。	実施後の振り返りをより体系的に行い、成果や課題を次回の立案へ具体的に反映させる仕組みを強化していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	季節感のある行事やテーマ活動を取り入れ、活動内容がマンネリ化しないよう工夫している。こどもの反応やその時期のニーズに合わせて、内容に変化を持たせている。	プログラムの見直しの機会をより定期化し、職員間でアイデアを出し合うプロセスを強化することで、活動の幅と質を継続的に高めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	こどもの発達状況や特性に応じて、個別活動と集団活動を意図的に組み合わせ、目的を明確にした支援を行っている。活動のねらいを共有しながら、個々のニーズに応じた支援構成を意識している。	活動のバランスや切り替えのタイミングについて振り返りを重ね、こどもの反応を踏まえたより精度の高い調整が行える体制を強化していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	0	支援開始前に打合せを行い、その日の支援内容や役割分担、こどもの留意点を共有している。共通理解のもとで連携を図り、円滑な支援実施につなげている。	情報共有の質をさらに高め、状況の変化にも迅速に対応できる体制づくりを継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	支援終了後に終礼を行い、その日の支援内容やこどもの様子を振り返っている。気づきや改善点を共有するとともに、記録を通して職員間の共通理解を図っている。	振り返り内容をより具体化し、共有した気づきを次の支援へ確実に反映できる仕組みを強化していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	日々の支援内容を記録し、その記録をもとに支援の検証と改善を行っている。保護者にも共有し、支援の透明性と継続性を確保している。	記録内容を活用しながら支援の質を見直し、得られた気づきを日々の支援へ確実に生かしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	定期的にモニタリングを実施し、こどもの状況や目標の達成状況を踏まえて計画の見直しを判断している。必要に応じて速やかに内容を調整し、支援へ反映している。	見直しの根拠や評価内容をより明確にし、計画更新の質をさらに高めていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	11	0	放課後等デイサービスガイドラインの4つの基本活動を意識し、それぞれのねらいを踏まえながら複数の活動を組み合わせ、支援を構成している。こどもの状況や目標に応じて、活動内容を調整している。	活動の組み合わせや展開方法をさらに工夫し、支援の幅と深まりを継続的に高めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	0	活動や場面に応じて選択肢を提示し、こどもが自ら考え決定する機会を意図的に設けている。自己決定の経験を積み重ねられるよう支援している。	選択肢の内容や提示のタイミングをさらに工夫し、一人ひとりの発達段階に応じた自己決定の機会を広げていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	管理者や児童発達支援管理責任者が会議に参画し、こどもの状況や支援経過を踏まえた情報提供と方向性の共有を行っている。	会議前の情報整理と職員間の共有をさらに徹底し、より具体的に実効性のある提案につなげていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0	学校との連携を継続的にを行い、得られた情報をこどもの支援内容に反映させている。関係機関との情報共有を通して支援の一貫性を図っている。	学校以外の関係機関との連携機会をさらに広げ、情報共有の質と頻度を高めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	2	学校との情報共有を継続的にを行い、年間計画や行事予定、こどもの下校時刻等を把握しながら支援の調整を行っている。送迎時の連絡調整も含め、円滑な連携を心掛けている。	タイムリーな情報共有や、連携の強化を今後は、より迅速で効率的な連携を実現するため、情報共有の方法やタイミングを見直し、改善していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2	併用先やこれまで利用していた施設等と必要に応じて情報共有を行い、こどものこれまでの支援経過や特性を踏まえた支援につなげている。支援の連続性を意識して対応している。	情報共有の機会をさらに確保し、支援内容の一貫性がより明確になるよう連携を深めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	10	これまで、対象児童がいなかったが、今年度卒業生が在籍しており、これまでの支援経過や内容を整理し、移行先へ適切に情報提供できるよう準備を進めている。	今後は関係機関との会議等を通して具体的な引き継ぎの機会を設け、円滑な移行支援の体制を整えていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	5	現時点で地域の児童発達支援センターとの直接的な連携はないが、FC（こどもプラスホールディングス）本部との連携や内部研修を通して支援の質向上に努めている。	今後は必要に応じて地域の児童発達支援センターとの連携も視野に入れ、外部からの助言や専門的視点を取り入れる体制づくりを進めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	7	現時点では、放課後児童クラブや児童館等との交流機会の確保は十分ではないが、地域資源や活動機会を把握し、連携に向けた検討を進めている。	今後は交流の機会を具体的に設定し、地域のこどもと関わる経験を段階的に増やしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	7	当法人の代表代理が協議会へ参加し、得られた情報や動向について共有を受けている。外部の動きを把握しながら教室運営に活かしている。	協議会で得られた情報をより具体的に職員間で共有し、支援や運営に反映できる仕組みを強化していく。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0	日頃からこどもの様子や活動状況について保護者と情報を共有し、発達状況や課題について共通理解を図っている。公式LINE等を活用し、継続的な情報提供を行っている。	一人ひとりの状況に応じた情報提供の工夫を重ね、保護者との相互理解をさらに深めている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	6	必要に応じて保護者への相談対応や助言を行い、家庭での対応方法や関わり方について様々な提案を行っている。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）を体系的に提供する体制は十分ではないため、今後は実施機会の設定や内容の整備を進め、段階的に実施・定着を図っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	契約時に運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明し、理解を得たうえで利用開始につなげている。	契約時の説明にとどまらず、定期的に内容を確認する機会を設け、利用者が安心して継続利用できる環境を整えていく。
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	作成にあたっては、こどもや保護者、関係機関と意見交換を行い、意向を踏まえた内容となるよう検討している。こどもの最善の利益を優先した計画作成を心掛けている。	意向確認をより丁寧にいき、こどもや家族の思いが支援内容にしっかり反映されるよう努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0	放課後等デイサービス計画を提示しながら支援内容を説明し、内容について理解を得たうえで同意をいただいている。	説明の機会をより丁寧に確保し、保護者からの意見や質問を踏まえながら、相互理解を深めていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	家族からの子育てに関する相談に対し、様々な機会を設けて状況を丁寧に聞き取り、必要な助言や支援につなげている。	相談内容をより具体的に整理し、家庭の状況に応じた実行可能な提案ができるよう、対応の質を高めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	5	昨年、保護者会を実施し、保護者同士の交流を図ることができた。	今後は移転を機に、保護者が気軽に参加できる交流の場を計画し、保護者同士のつながりを広げていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	苦情対応の体制を整備し、利用開始時にその仕組みについて説明している。ご意見があった場合には速やかに内容を確認し、適切な対応を心掛けている。	ご意見を頂いた際は、その内容を振り返り、再発防止や支援の改善につなげる取り組みをより強化していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	毎月のお便りやブログ等を通して、活動概要や行事予定、連絡事項を定期的に発信している。継続的な情報提供により、活動内容が伝わるよう努めている。	情報発信が一方にならないよう、保護者からの意見や反応を受け取る機会を増やし、双方のやり取りを意識した発信へと改善していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0	個人情報保護に関するガイドラインに基づき、書類やデータの管理を適切に行い、取扱いに十分留意している。	個人名が入った書類を裏紙に使用していた事があったことから、情報管理の重要性を職員間で再確認し、取り扱い手順の徹底を継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0	子どもや保護者の特性や理解度に応じて、伝え方を工夫しながら意思疎通を図っている。	情報の伝え方に幅を持たせ、必要に応じて視覚的な資料等も活用しながら、より分かりやすい情報提供を心掛けていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3	季節のイベントを通して地域との交流を図り、地域とのつながりを意識した運営を行っている。	移転を機に、地域行事への参加や社会活動への関わりを広げ、地域との交流をさらに深めていく。
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0	事故防止や緊急時対応等に関する各種マニュアルを整備し、職員や家族に周知している。マニュアルに基づいた訓練を実施し、対応力の維持向上に努めている。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0	非常災害に備え、計画を策定し、これに基づき定期的に避難訓練を実施している。状況を想定しながら実践的な訓練を行っている。	訓練内容を振り返りながら改善を重ね、より実効性の高い避難体制の確立を目指していく。
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	2	契約時に服薬状況や既往歴、てんかん発作の有無等を確認し、必要な情報を職員間で共有している。状況に応じて支援体制を整えている。	子どもの体調や状況の変化について継続的に確認し、保護者との情報共有をより丁寧にやっていく。
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	3	食物アレルギーのある子どもについては、保護者からの情報をもとに内容を把握し、該当する食品を避けるなどの配慮を行っている。	今後、より明確な対応が必要となった場合には、医療的な指示内容を確認したうえで適切な対応が行えるよう体制を整えていく。
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0	安全計画を策定し、必要な研修や訓練を定期的に実施している。日々の支援においても安全面に配慮し、事故防止に努めている。	研修や訓練の内容をより実践的なものとし、職員全体の対応力向上につなげていく。
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0	安全計画に基づく取組内容について保護者へ周知し、安全確保に関する連携を図っている。	安全対策の内容がより具体的に伝わるよう、説明方法や資料の工夫を行い、理解を深めてもらえるよう努めていく。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	ヒヤリハット事案が発生した際には報告書を作成し、職員間で共有している。共有内容をもとに再発防止策を検討している。	情報共有の質を高め、潜在的なリスクにも目を向けながら未然防止の取り組みを強化していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	虐待防止に関する体制を整え、職員への研修機会を確保している。日常的な声かけや振り返りを通して、虐待防止への意識づけを行っている。	虐待の未然防止につながるよう、職員が相談しやすい環境づくりを継続し、気づきを共有できる体制をさらに整えていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	0	身体拘束に関する基準を定め、マニュアルを整備している。やむを得ない場合の対応については慎重に判断し、適切な運用に努めている。	身体拘束が必要となる場合には、事前説明や記録を徹底し、人権に十分配慮した対応が行えるよう体制を維持していく。